

会議名称	令和元年度 第1回杉並区地域自立支援協議会 記録
日時	令和元年5月28日(火) 13:30~16:00
場所	区役所分庁舎4階AB会議室
<p><出席委員> 高山由美子委員(会長)、寺西宏晃委員(副会長)、春山陽子委員、石井真由美委員、奴田原直裕委員、能勢豊委員、木村晃子委員、島田祐次郎委員、平由美委員、川口理恵子委員、小佐野啓委員、吉本光希委員、相田里香委員、井上歩委員、継仁委員、修理美加沙委員、下田一紀委員、早野節子委員、永田直子委員、荒井重子委員、中元直樹委員、白瀧則男委員</p> <p><欠席委員> 小野寺肇委員、</p> <p><傍聴> なし</p> <p><出席幹事> 保健福祉部障害者施策課長：河合義人、障害者生活支援課長：諸角純子(欠席) 杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：岡本幸子</p> <p><事務局> 障害者施策課：目黒紀美子、田邊信広、佐々木夏枝、池田恵子(記録)、星野健(欠席) 障害者生活支援課：岸義久 高齢者在宅支援課：藤代陽子</p>	
<p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 障害者施策課長挨拶 3 委員自己紹介及び幹事紹介 4 会長及び副会長の指名 5 会長挨拶 6 報告及び検討 <ol style="list-style-type: none"> (1) 杉並区地域自立支援協議会について (2) シンポジウムについて (3) 今期の本会の進め方について 7 その他 	

【配布資料】

- 資料1 第7期地域自立支援協議会委員名簿
- 資料2 杉並区地域自立支援協議会設置要綱
- 資料3 杉並区地域自立支援協議会について
- 資料4 第6期地域自立支援協議会（平成29～30年度）での取り組み状況と課題
- 資料5 これまでのシンポジウム
- 資料6 地域自立支援協議会の論議のまとめ
『ライフステージを軸とした相談支援、関連制度・サービス等の課題整理』
- 資料7 本会・各部会のスケジュール
- 資料8 平成30年度 第4回地域自立支援協議会 記録

【内容】

- 1 開会
- 2 障害者施策課長挨拶（河合課長）
- 3 委員自己紹介及び幹事紹介
所属、氏名を各自自己紹介。
- 4 会長及び副会長の指名
（事務局）会長、副会長は保健福祉部長が指名するとなっており、今期の会長を高山氏に、副会長を寺西氏にお願いしたい。⇒全員了承。
- 5 会長挨拶
（高山会長）引く続き本会の会長を受けさせていただくことになりました。第2期からこの協議会に関わっていますが、メンバーが半数変わり、これまで気づけなかった新たなご意見もいただきながら、一緒に作っていける協議会にしていければと思います。地域で暮らすことを中心に、時代の流れに対応できる、変わっていける協議会でありたいと思います。
- 6 報告及び検討
 - (1) 杉並区地域自立支援協議会について
（事務局：目黒）資料3及び資料4の説明
（高山会長）協議会の機能、これまでの展開等の説明をしたが、たくさんの情報がありすぎてお伝えするのが難しい部分もある。共通理解を持ってスタートしていきたいため、小さなことでもご質問を。まずは、協議会についての質問や、これまで部会で活動してきた方から補足があればお願いしたい。
（修理委員）相談支援部会は今期まだ開催していないが、本会からも意見をいただきながらやっていきたい。
（下田委員）今期の相談支援部会はかなり体制を変えてやっていく予定。これまではテーマごとに分かれて活動してきたが、支援者だけの議論になっていないかという指摘があったため当事者の参加について選定中。こういったテーマでやってほしいなどのご意見があれば、本会ともやり取りしながら活動していきたい。
（川口委員）働きかたサポート部会は平成29年度からスタートした。今後、どういう形でやっていくかは皆様のご意見をうかがいたい。昨年度は当事者委員4名に参加していたとき、働いている方々が働き続けるためにどんな支援が必要か等の議論を行った。今期は、働きたいけど働け

ない方々にどういった支援があれば働けるかをテーマに活動する予定。6/25に第1回の部会を開催する。委員については選定中。

(事務局：目黒) 資料7について補足説明。前期まで相談支援部会だけが当事者委員がいなかったが、今期は参加していただく予定。高齢障害者については、議論の幅を広げるため、仮称「高齢部会」の年度内の立ち上げを目指し、準備していく予定。また、各部会の部会長、副部会長、事務局で協議会本会の幹事会を開催している。

(高山会長) これまでも試行錯誤しながらやってきている。部会と部会が重なり合っている部分もあり、新しい部会の立ち上げ、発展的解消もある。

(春山委員) 今期は田中直樹委員から中元委員に変わり、大きな変化があったと思う。第1期は混迷していたが、各部会が活発な活動をしてきている。本会が年4回の中で、部会から上がる地域の課題を解決していくというプロセスの部分が弱くなっていると感じる。地域の課題が重層的になっており、高齢障害者、切れ目のない支援、家族が機能低下した時など同じテーマもある。多様性を持った複雑な課題が展開していると感じている。本会の役割についても、このままでよいのか、このシステムでよいのかという疑問もある。新しい委員の方のご意見もお聞きしたい。

(2) シンポジウムについて

(事務局：田邊) 資料5をもとにシンポジウムについて説明。平成23年度から毎年1月頃に開催している。昨年度は90名程度の参加があった。実行委員会形式で企画、運営を行っており、本会委員に実行委員をお願いし、各すまいるからも参加してもらっている。夏くらいから3～4回集まって内容を詰めていく予定。実行委員に立候補していただける方を募集している。立候補がなければ、個別に声かけさせていただくのでご協力をお願いしたい。

～休憩（10分間）～

(3) 今期の本会の進め方について

(事務局：池田) 資料6をもとに、これまでの地域自立支援協議会の論議のまとめを説明。

前期のまとめの中で、今期は、本会で一つのテーマを絞り、2年かけて検討、形にしていくことを目指してはどうかという意見が出ていたことから、まずは、委員の皆様が関わっている分野に絡めて課題や意見を挙げていただき、テーマを絞っていききたい。

(高山会長) ひとり一言はご意見いただければと。特に委員が関わっている部分で今後の課題となること、議論を深めていく際に協議の切り口となっていく点などについてご意見いただきたい。

(小佐野委員) ライフステージを軸とした資料だが、地域移行支援の課題は居住の場や生活支援の課題とも重なる。資料の中の縦串を入れる形の支援を考えていく必要がある。仮称「高齢部会」には期待している。費用面やサービス量などの課題もある。引きこもりや8050問題はやってほしい。しかるべき方を委員に据えて困らないようにしていければと思う。

(能勢委員) 4月からグループホームに入居している。それまでは衣食住すべて親に依存していた。すごく不安だったが実際にやってみるとすごく楽しい。親と離れてみると寂しくはなく快適。親も守りすぎるのはどうかと思う。子どもの芽を摘んでしまう。引きこもりも中高年になってきている。親離れ、子離れは必要。依存性も強いので…。成年後見も必要かなと感じている。

今日、通り魔事件があったが、そのことでまた精神障害者に対する偏見が強まるのではないかと心配している。正しく障害を理解してほしい。

(木村委員) 家で両親と暮らしている。会社で働くグループホームの情報が入ってこない。私は

障害があって頭に手先が届かないので、髪の毛を洗うのは母に手伝ってもらっている。食事や洗濯物干しなどは自分で手伝っている。両親が生きているうちにグループホームに入って日常生活ができればいい。会社が池袋なので、実家との間にあるグループホームで暮らしたい。土日と夏休みと年末年始は家で過ごしたい。グループホームの空き情報があったらください。

(中元委員) グループホームを運営している。障害支援区分の出し方について、自治体により違いがでてしまっている。障害支援区分が付かないことで、区民にサービスが制限される可能性があり、懸念している。治療につながっていない精神障害者の実態がわからないが、ぜひ力を入れてやってほしい。

(早野委員) 医療的ケア児は人数が少ないので、なかなか進まないが、やっと少し進んできた。最近では動く重症児の課題が出てきている。権利擁護、差別解消にもつながる課題であり、呼吸器をつけていても教育を普通に受けられるようになるべきと思う。永福学園の通学支援の状況を教えてほしい。

(島田委員) 医療的ケア児の送迎については、2台の専用通学車両を配置し、小学部6名の児童が利用している。年々増やしていく予定だが、待機児はかなりおり、自主登校となっている。学校の看護師は最初の頃は添乗していたが、今は専用の看護師が添乗している。全校生徒102名のうち60数名が杉並区在住、半数が医療的ケア児。生活介護等の福祉サービスに移行する児童が多いので、不足しないよう整備してほしい。重度障害者も地域で暮らしていくので、早めに計画を立てていく必要がある。支援者不足は話題になっている。働きやすさや、魅力ある仕事として継続して働けるようなしくみが必要。緊急時の受け入れの整備も必要。学校も課題があるので、ともに連携してやっていければと思う。

(川口委員) 就労してしまうと支援が切れてしまうのが課題。登録者1,030人のうち590人が定着支援の登録をしている。生活まで見きれていないのが現状のため、他機関と連携して支援している。障害者雇用は週20時間以上だが、それ以下の雇用のニーズもある。支援者が対応に追いついていかない状況。

(石井委員) どこで事例検討をしてもこの課題はある。前の職場の地域では、介護保険へのスムーズな移行に力を入れてきた。65歳の3か月前には地域包括支援センターと集まりましょうという地道な取り組みをしてきた。小さなことから取り組んでいくのも大切。

(高山会長) 高齢部会の準備会はどのようにやっていくのか？

(井上委員) 介護保険への移行は利用者にとってはわかりにくいと思う。ケアマネ側に障害者制度の理解不足もある。早い時期に連携できるとよいと感じる。

(相田委員) ケアマネは地域づくりを担う職種。ひとりでも暮らし続けられる地域、チーム作りや家族支援など、地域住民や暮らす人たちとの和をどのように作っていくかが重要。今後、どのように、何を刺していくかを考えていくのが本会ではないかと思う。

(永田委員：途中退席されたため意見を預かった事務局から発言)

前期から高齢分野の委員も加わり、より多角的に議論できるようになった。ひとりの連続した暮らしの中で、本人にとって暮らしのキーパーソンは相談支援。権利擁護の視点は重要と思う。本会は報告の時間が長いので、議論の時間を長く取れるとよい。障害者福祉推進連絡協議会とのすみわけも必要。シンポジウムはいつも参加者に好評だが、区民と協議会の双方向の理解が弱いと感じる。

(修理委員) 高齢になっても地域で暮らすことには、まだまだ高齢分野と障害分野のお互いの理解が足りないと思う。ネットワークがひとつの輪でなく重なり合っている。今日、通り魔事件があったが、改めて障害理解を深めるための啓発、インクルーシブ教育など、協議会として外に発信していく必要があるのではないか。民生委員との連携も必要。意思決定支援についても考えていく必要がある。就労継続支援B型の職員がある会議で発言していたのだが、昨年の報酬改定により、工賃を稼ぐほど施設の報酬が上がるので、外で就労させたくないと言っていた。グループホームも区分が下がったからという話だけでなく、その人がどう暮らしていくか、地域のサービスや意思決定、インフォーマルサービスをどう使うかなど、その人の障害で将来を決めてしまわないように、協議会でも議論をしていきたい。発達障害者や中途障害者、そうではない生き方など、その人の生き方を支えることが大切。地域でどうやって暮らし続けるかの議論をしていく必要がある。

(下田委員) 相談支援は関わらない分野はなく、重要さを感じた。報酬は安すぎるが…。制度の狭間にある人の支援など、いろいろな分野で関わっている人が参加している協議会で議論できるとよい。マイノリティ要素を複合的に持っている家庭、どこに行ってもたらい回しになるなどの事例を拾い上げて支える、あるべき姿を議論できればと思う。子ども家庭支援センターに子育て支援で子どもを預かってもらえないかと相談しても、障害児だと預かってもらえないと聞く。障害者は40代後半から加齢に伴う退行により機能低下し、介護量が増大する方がいるが、まだ介護保険対象ではなく、グループホームで支え切れない状況が起きている。いろいろな課題をどう解決し工夫していくのかを考えていきたい。

今期、相談支援部会は大きく体制を変えた。今年度、基幹相談支援センターを設置することになっているが、地域の相談支援体制をどう整備していくのかも検討したい。相談は障害者だけではない。それぞれの役割を果たしていければと思う。

(白瀧委員) グループホームの管理者をしている。今月、世田谷に2所開設する。居住の場であるグループホームは、東京都の設置目標を超えており、増えている状況がある。最近フランチャイズで素人さんがグループホームを作り始めており、コンサルが入り込んできている。重度、高齢化に対応するグループホームが少ないが、対応するためには、報酬が少なく、人件費が大幅にオーバーしてしまう。日中サービス支援型は、報酬のメリットが少ない。東京都の説明会で、重度、体制強化加算で年間110～160万円プラスという説明があった。杉並区でも報酬面で特例を考えていかないと厳しいのではないかと。職員は不足しており、70歳超えの職員が4名、外国人も6名雇っている。

(継委員) 今年度、介護給付費の審査会委員になった。書類だけでは現場が見えてこず、見えないものに対して決定している状況。どの区分になったからというフィードバックがない。現場視察があるとよいのでは。概況だけでは判定できないと思う。

(吉本委員) 同愛会の地域生活支援センターを統括している。区分審査会の委員をしていたことがあるが、特記事項をしっかりと書き込んでないと区分を上げるのは難しい。現場の職員には、可能な限り認定調査に同席するように話している。グループホーム、移動支援、相談支援をやっているが、どこも人がおらず、育成が大変。ヘルパーの登録は54名いるが平均年齢が60代。リタイヤした人が片手間にやっている。報酬単価が上がっていないため時給が上げられない。高齢のヘルパーが多く、若い利用者にマッチしない。相談支援専門員、サービス管理責任者の資格はでき

るだけ取るようにしてきたが、相談支援の資格が切れているなどで、持っている人が少なくなっている。

(平委員) 成年後見制度は、実際には40代くらいから利用する人が多い。意思決定の機会が奪われていた人、すべて資産を奪われたりする人もいる。必要な人に必要な事業や制度が届くような仕組みや議論が必要。多岐に渡る課題があるが、優先順位をつけるのが難しい。

(奴田原委員) 初めて会議に参加して、このような会議があることを知ったことが大きい。両親と暮らしており、14歳の時に受傷してから親がずっと介護してくれていた。昨年くらいに親が高齢になって介護が大変になり、区に相談したことから縁あってここに参加している。甘えているうちは動こうとしなかったのも、居宅介護は入れていなかった。ライフステージを長い目で見て、親が元気な時にいろいろなサービスを使っていくとよいと思う。区からのアプローチが合ったりすると、また違うのかなと思う。

(荒井委員) うちの子たちの自立って何だろうと思う。障害が重い、軽いではないんだろうなど。杉並区でもずっと前からいろいろなことを考えてくれているんだなと思った。自分の勉強になるので、何とかやっていきたいと思う。

(寺西委員) サービスにつながっていない人の相談を受けているが、すまいるだけでは支援できないことも、他機関の方と連携し、インフォーマルな支援や地域包括支援センターの方の情報も得ながら支援を考えていきたい。すべての課題が大切なことだが、テーマを絞る必要はあると思う。相談支援部会や他の部会と連携した本会の機能を果たせるとよい。

(高山会長) それぞれの実践の立場から見えていることを共有できたこと、幹事会でも検討して次回につなげていければと思う。

7 閉会

次回日程 8月8日(木) 13:30~16:00 (予定) 区役所中棟6階第4会議室